

コシヒカリの播種は4月18日頃から！ 田植えは5月10日以降15日を中心に  
～収量と品質の向上は健苗育成から！～

☆コシヒカリの目標スケジュール

消毒	浸種	播種	田植日	出穂期
4/7(木)	4/8(金)	4/18(月)	5/10(火)	8/3頃
4/15(金)	4/16(土)	4/25(月)	5/15(日)	8/5頃
4/21(木)	4/22(金)	4/30(土)	5/20(金)	8/8頃

育苗日数は20～22日間

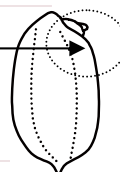


若い苗は、分けつが発生しやすい！  
(適正穂数を確保するため、育苗からしっかり！)

☆育苗のスケジュールと作業内容

田植え予定日 5/10 5/15	作業	温度管理	作業管理のポイント
4/7 4/15	比重選		① 比重選で種籾を厳選 ～病気や発芽不揃いをしっかり予防～ ・比重液の作り方 (水10ℓに対する硫酸の量)：うるち約2.5kg もち約1.5kg ※硫酸による発芽障害を防ぐため、比重選後の種籾はすぐに水洗いを行う
4/8 4/16	種子消毒 浸種	水温 10～15℃を確保	② 種子消毒を徹底 ・種子消毒は、モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬 (温度管理が重要)
4/17 4/24	催芽	育苗器で 28～30℃ 20～24時間	③ 浸種は、4月8日以降から始める ・水温×日数＝120℃を目安に。10～15℃の水温と十分な水量を確保する ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ 水温が上がり過ぎないように、置き場に注意 (低温にも注意！) ・後半は必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する
4/18 4/25	は種		④ 芽の長さをこまめにチェック ・均一に催芽するため1日2～3回、袋を反転させる ・均一には種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う (籾が手に付かない程度まで陰干しを行う)
4/20 4/27	出芽	育苗器の温度は 30℃・2～3日	⑤ 播種量は乾籾で箱当たり 120g(催芽籾 150g) ※苗箱施薬剤を播種時対応する場合、規定量が施用されているか確認！
4/23 4/29	搬出 緑化	ハウスの温度は 昼：25℃以下 夜：10℃以上	⑥ 育苗器の温度をこまめにチェック (サーモスタットの使用前点検は必ず行う！) ⑦ 芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・搬出時には、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水 ・第1葉が展開したら速やかに被覆資材をはずす ※低温が予想される場合は搬出を見送るか、かん水せずに被覆資材で保温につとめる
5/10 5/15	田植え		⑧ かん水は朝にたっぷりを行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・田植えの7～10日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす

目安：ハト胸～2mmまで



厚播きは苗質が悪くなる

- ① 温度が正確か 事前に確認
- ② 育苗器の温度設定を確認



剤を変更している場合は特に注意

換気はしっかり！

春の土づくり ～収量・品質の向上は、まず土づくりから～

ケイ酸質資材及び有機物の施用

- ・ケイ酸には、登熟歩合の向上、割籾防止の効果が有ります (図1, 2)。耕起前に珪酸質資材を施用しましょう (表1)。
- ・稲体の活力維持のため、発酵ケイフンなどの有機物を施用して地力の維持・向上を図りましょう (表2)。

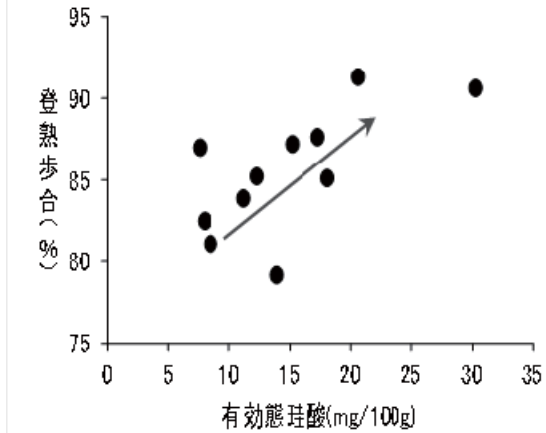


図1 有効態珪酸と登熟歩合の関係  
注) H26 土壤分析結果

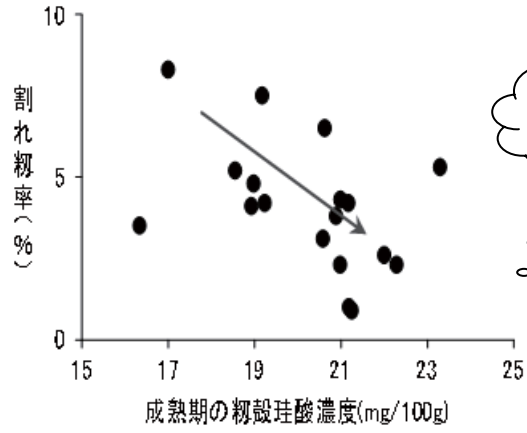


図2 成熟期の籾殻珪酸濃度と 割れ籾率の関係  
注) H23 農研

カメムシ対策にも

表1 主なケイ酸質資材施用の目安

資材名	施用量(10a当たり)
大地の祭りS	100kg
米取けいさん鉄	100kg
シンキョーライトP	60kg

表2 堆肥施用の目安 (春施用)

堆肥名	散布量(10a当たり)
発酵ケイフン	75～100kg

注) 春施用する場合は、基肥チッソ量を1～2kg/10a程度減肥する。

深耕による作土層の拡大

- ◎作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ◎耕起は、トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さを15cm以上 (現状より3cm程度深くする) 確保しましょう。

春の農作業安全運動実施中！ 「一人一人の安全意識の向上で事故防止」

